

第5学年 国語科の実践

1 単元名 「大造じいさんとガン」 （全6時間 本時5時間目）

2 単元目標

○登場人物の相互関係や心情の変化などについて読み取ることができる。

◎物語の全体像を具体的に想像して構造図にまとめたり、主題について自分の考えを持ったりすることができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題 「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ・・・「仲間への理解、自立する自分」

- ・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿
- ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

自信を持たせるためにノートに適宜回収しては丸付けやコメントをして返したり、一人ひとりが考えを持てるよう時間の確保をしたりしている。また、ペア活動、グループ活動をすると友だちとの交流からヒントをもらって自分の考えを持てることがあるので、必要に応じて取り入れている。

話し合いにおいては、他者を非難するような発言はなく、どのような考えに対しても受け入れよう、理解しようと努める姿があり、この学級の良いところだと思っている。友だちの考えを聞いて考えが変容する柔軟なところや、自分と同じ考えを聞いて自分の考えに自信が持てた様子が、前単元の「たずねびと」の際に見られたので、本単元においても出てくると、子ども同士が「ひびき合い」をしながら成長できるのではないかと考えている。

読み取りにおいては、よく叙述に基づいて考えることができている。ただ、音読活動を取り入れてよく読ませておく必要が実態としてある。そのため、朝の学習でグループでの丸読みなどを取り入れている。

4 単元と指導について

＜☆5年部が考える国語科の「ひびき合い」の指導について＞

☆1 5年部の「ひびき合い」の定義について

友だちの意見を検討すること ＝ 「ひびき合い」

と定義して研究していきたい。

子どもたちは教材を読み取り、自分の考えをノートに書き、発言してみんなで話し合う。多くの学習で行われてきた流れだと思う。この話し合う際に、学習が盛り上がらない場面があるとすると、それは意見を発言して終わってしまう場合ではないだろうか。盛り上がる場面があるとすると、子どもたちの意見にズレが生じ、そこから子どもたちが「話し合いたい!」、「深く考えたい!」という気持ちになり、一人の意見から派生するように賛成意見、反対意見、第三の意見などが生まれる場面だと思われる。

この「意見のズレ」というのは、教科や教材の特性的に自然と発生する場合もあるし、学級の雰囲気や子どもたちの特性によって発生する場合があるが、必ず出てくるものとは限らない。「ズレ」が生じるように学習を構成しても、実際に本時になったらそうはならないという経験がどなたにもきっとあるのではないだろうか。

そこで我々は、研究主任から「教師の出どころ」を今年特に意識をしたいとお話にあったように、「問い返し」の発問による教師の話し合いの交通整理によって、「意見のズレ」を意識して話し合いが進められるように学習を考えてみた。

今回我々5年部で、国語科の「大造じいさんとガン」の学習を進める上で考えた「問い返し」の発問は、

(子どもたちからこのお話の主題についての意見がいくつか出されて分類された状態で)

「これらの主題の中で一番作者の思いを表しているのはどれだろうか？」

である。

「どれが一番？」と問うことで意見のズレに注目させ、「友だちの意見をみんなで検討する」ことをさせたい。教科書を読み返しながらか、またはグループやペアで話し合いながら検討をし、その後全体でそれぞれの出されている意見のよい点、違うと思う点を出させて検討を進めていきたい。

もちろんこの手法を使うと討論のようになるかもしれない。でもそれでもよいと考える。最終的にはクラスの多数決を行ってクラスとしての意見を決めるかもしれない。でもそれでもよいと考える。なぜならば、全体の話し合いが終わった後には、もう一度一人で考える時間を設け、全体の話し合いを経て、自分は最終的にどう考えるかをまとめる時間を設けるからである。この最後に自分で判断し、自分の答えを見つけることが最も大切であり、「友だちと意見を検討すること ＝ ひびき合い」は、子ども一人ひとりが自分の答えを出すための、自らの考えを広げたり深めたりすることを促す過程だからである。

以上のようにして、「友だちの意見を検討すること ＝ ひびき合い」と定義して学習計画を立て、「友だちの意見を検討すること ＝ ひびき合い」を通して、国語科のねらいへと迫りたい。

では、今回の「大造じいさんとガン」における国語科のねらいとは何か？について以下述べていく。

☆2 「大造じいさんとガン」における国語科のねらいとは何か？

「大造じいさんとガン」は、はじめはガンを卑怯な手段を使おうとしても捕まえようとしていた大造じいさんが、ガンのリーダーである残雪の自分が捕まっても仲間を助けようとする勇気のある姿に心を打たれ、正々堂々と戦うことの素晴らしさに感銘を受けるお話である。

このお話は適所に情景が描かれ、中心人物である大造じいさんの心情がよく表れている。また、中心人物の心情の変化を見ていくと、はじめの様子、心情が変化するときかけ、変化した後の様子がわかりやすい。心情の変化のきっかけや変化した後には物語の「主題」につながる（または暗示する）文章が含まれていることが多いが、この物語においてはそういった意味で、「主題」について捉えやすい物語となっている。

学習指導要領においては、

Ｃ 読むことのイにおいて、

イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること

とある。この物語は、情景が適所に書かれていて、心情を読み取ることに於いて行動や会話、情景などを通して暗示的に読み取ることに適していると考えられる。また、

Ｃ 読むことのエにおいては、

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること

とある。全体像は「はじめ～な〇〇が、～によって、～になる話」という形で捉えることができるが、この物語ははじめ・中・おわりがわかりやすいので、全体像についても捉えやすく、それゆえにまた、「表現の効果」についても自分の考えを持ちやすい。「表現の効果」については、学習指導要領解説のＣ 読むことのエの解説において、

感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目しながら読むことが重要である。

とあり、「主題」について学習することで「表現の効果」へと迫ることができる。以上のような理由から、「主題」を通して学ぶ「表現の効果」を最も重要な学習のねらいとして定め、そこで「ひびき合い」を通して一人ひとりが自分の考えを持てるようにしていきたい。

しかしながら、いきなり「主題」について子どもたちに問うても、内容理解ができていない中で行っては、学級の子どもたち全員が「ひびき合い」をする舞台に立つことはできない。

そこで、「ひびき合い」をするための土台を大切にしたい。土台について以下さらに述べていく。

☆3 「ひびき合い」をするための土台を大切にする

誰もが話し合いに参加できてこそ、私たちが目指す「ひびき合い」なのではないかと5年部では結論に達した。また、話し合う上で共通の土台がなければ、話し合いがかみ合わず、ひびき合わないとも考えた。
そこで、今回の学習においては「ひびき合い」のための土台を設定したのが次の通りである。

〈ひびき合いのための土台〉

- ① 音読活動をして内容の理解を図る。
- ② 登場人物をおさえることを通して、丸ごと読みを行う。
- ③ では、中心人物は誰なのかをおさえることを通して、人物像や心情の変化に注目する。
- ④ 心情の変化に注目することで、人物の変化の「はじめ」「中」「おわり」をおさえる
- ⑤ 「はじめ」「中」「おわり」をおさえることで、物語の「全体像」を理解する。

これらの①から⑤までが、学習指導要領のC読むことの

イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること

と、

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、

の部分になる。そして、この①から⑤を土台として、学習指導要領のC読むことのエの後半部分である、

表現の効果を考えたりすること

へと迫っていく。この「表現の効果を考えたりすること」の部分は「主題」を考えることで扱い、そしてまた、この「主題」について話し合うことで「ひびき合い」を目指す。

その際には、「問い返しの発問」を用いて、

(子どもたちからこのお話の主題についての意見がいくつか出されて分類された状態で)

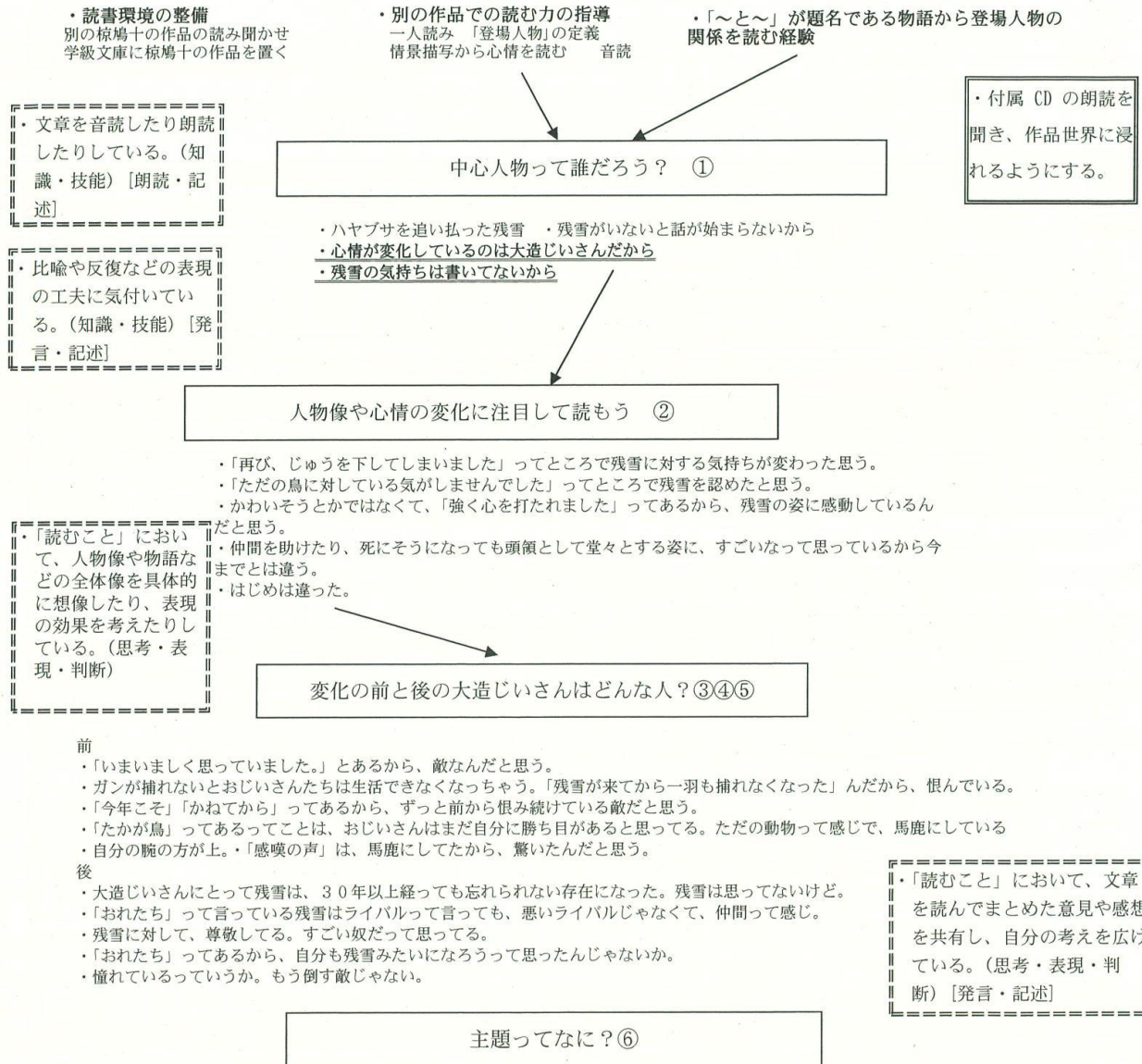
「これらの主題の中で一番作者の思いを表しているのはどれだろうか？」

という一番を問う発問をすることで話し合いをする。学級の児童の実態に応じて、討論をしたり、グループで話し合ったり、あるいはクラスの考えを多数決で決めるなどの活動を通して「ひびき合い」を行い、子ども一人ひとりの考えを広げたり深めたりすることによって、最終的な自分の考えを持てるようにしていきたいと考える。

5 単元構想について

5年 国語科 登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりよくを伝え合おう（大造じいさんとガン） 全6時間 本時 6時間目

単元目標	◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
------	---



・積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。(主体的に学習に取り組む態度) [発言・記述]

・自分の主題と友達の主題を比較し、自分の考えを強化したり、考えが変化したり、「AとBを合わせてCという考えだと思う。」といった統合をしやすいい声かけをする。

これらの主題の中で一番筆者の思いを表しているのはどれ？

仲間を大切にする気持ち	誰に対しても尊敬の気持ちをもつ	困難な時でも戦う	正々堂々と挑戦することが大切だ	その他
-------------	-----------------	----------	-----------------	-----

6. 本時について

本時目標 : 物語の主題について話し合ったことを元に自分が考える主題をまとめることができる。

学習活動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
(まとめ) ※自分の考える主題について書く。参考になった友だちの意見なども書く。 ① 困難な時でも闘うことは大切だ。 ② 仲間を思う気持ちが大切だ。 ③ 誰に対しても尊敬を気持ちを持つこと。 ④ 正々堂々と挑戦することが大切だ。 ◎この物語の主題とは？ 大造じいさんとがん 十月十八日(金) ☆問い返しの発問 「これらの中で作者の考える主題に一番近いのはどれだと思う？」→ 討論をする。	・前時の振り返りをし、本時のめあての確認をする。 ・主題について各自が考える時間を確保する。 ☆意見発表をする際は分類をして板書していく。 ☆問い返しの発問「これらの中で作者の考える主題に一番近いのはどれだと思う？」→ 討論をする。 ☆まとめをする。 ◆まとめの際、友だちの意見を参考にして自分の考えが広がったり深まったりしている。 【思考・判断・表現】

7 実践を終えて

本単元の実践を通して、「ひびき合い」の在り方について5年部で話し合い、共通理解を図ることができた。この「ひびき合い」は学年の発達段階によっても捉え方は異なるし、教科についても異なると思われる。今回は国語科で実践をしたわけであるが、国語科の中でも「読む単元」、「書く単元」、「話す単元」など、領域によっても異なってくると思われた。私たちが実践した「読む単元」においては、読み取ったことを交流して広げたり深めたりすることが「ひびき合い」だと考える。そのためには発表するだけでなく出てきた意見についてみんなで吟味することが大切であった。

「この中で一番はどれか？」と問い返す発問は、その上で有効であったと思われる。その一方で、その発問に固執すると教師の思惑と子どもたちの思考がかみ合わない危うさも感じられた。本学級では、前時の登場人物の心情の変化の学習の際に「これらの出た意見で、一番のきっかけはどれか？」と問うた時、「合体意見にすればいいと思う」という意見が出され、その考え方で学習を進めたところ、ただ意見を組み合わせただけで本当の一番大切な要素には触れることができないということがあった。

ここでは、問題点が2つあると思う。1つは、子どもたちの中で「必ずしもいつも1番の答えを求めているわけではないこと」である。「あれもこれも大切じゃん。」というように考える時があっても当たり前である。もしこのように子どもたちが思考している時に私が「一番を求めること」を強要したら、とたんに授業は活気を失っただろう。子どもの思考の流れを優先して、「合体意見を考える」という方法に切り替えたことは良かっただろう。

だが、その後に問題点2つ目がある。「合体意見をつくる際は、ただ合体させるだけではだめだ」ということである。今述べている前時の話では、ただいろいろな意見を付け加えただけの意見が続出し、何が大切なのがはっきりしないまま授業が終わった。もし、「合体意見」の方向で進むのであれば、「複数の意見を一つの表現でまとめることを目指す」という条件を提示しつつ、それはとっても難しいことであることを事前に伝えて課題に臨ませたら、本学級の子たちは向上心の高い子たちが多いので、みんなで知恵を出して取り組めたかもしれない。「複数の意見を一つの表現でまとめる」とは、ただ文章を付け足して長くするのではなく、自分の言葉に変換して表現することである。主題で考えるならば、例えば、「仲間を助けることは大切だ」と「堂々と戦うことは大切だ」を子どもたちは単純につなげて「仲間を助けて堂々と戦うことは大切だ」と表現して合体できたと言うが、そうではなく、「仲間を思ったらそのことしか考えられない」や「仲間思いの人はいつも堂々としているものだ」、「勇気って友だちを思う気持ちだ」などの自分なりの言葉が出てきたり、自分なりの文章として言葉をつないだりするものだと思う。これはとっても難しいことであるが、みんなで知恵を出して何か一つ創り上げることができれば、素晴らしい達成感があるのではないだろうか。

本時においては、前時における以上のような懸念があったため、「合体意見」の方向で進むことも念頭に入れて授業に臨んだ。結果的に「合体意見」の方向には進まず、「どれが一番なのか？」について話し合い、多くの意見が出て活発な学習を行うことができた。ただ、大切にしていきたいのは、子どもの思考に応じて我々が問い返しをできるようにすることである。今回はただ予定通りに進んだだけである。もしかしたら前時に懸念していた通りの「合体意見」の方向に進んだかもしれないし、あるいは、まったくそれらとは異なる思考に子どもたちになったかもしれない。だからこそ、子どもたちの思考を大切にしたい学習が行えるよう、私たちは「問い返しの発問」、つまりは「教師の出どころ」について研究を深め、我々が目指す「ひびき合い」を達成できるようにしていきたい。

10/18 No.52 「大造じいさんとガン」



この物語の主題とは？

- ・ペアとグループワークを効果的なタイミングで導入できた。
- ・板書計画が良かった→グルーピングしやすい。
- ・生活経験がわかりやすかった。
- ・子どもの思考の流れに沿っていた。



様々な考えを交流することで、自分の考えを広げたり深めたりする姿

- ・主題を考える中でじっくり考える時間が足らなかった。
- ・まとめまでたどり着けなかった。

- ・主題を考える時間が少し足りなかった。
- ・故意的に指名をする

ひびき合い